

環境健康科学研究教育センター公開セミナー 第8回			
開催日	2013年1月31日	講演時間	16時40分～18時30分
講演者(所属) 松本伊智朗教授(北海道大学教育学研究院)			
配布資料: パワーポイント資料、貧困とは何か、子ども虐待と家族(管理用紙ファイルに添付)			
出席者(敬称略)			
CEHS	岸玲子特任教授, 安住薫特任講師, 池野多美子特任講師, 荒木敦子特任講師, 伊藤佐智子, 宮下ちひろ, 多島秀司		
	長島美織准教授(メディア・コミュニケーション研究院), 日高茂暢(教育学研究院), 橋本悟(教育学研究院), 杉澤美由紀(教育学研究院)		
1. 演題			
第1部 貧困概念に関する論点のいくつか ー ルース・リスター氏の「リスペクト」に関する議論を中心にー			
第2部 子どもの虐待問題と「重なり合う不利」 ー 厚生労働科研による児童相談所受理事例の分析を通してー			
2. 講演内容			
○ 貧困の歴史と理論			
○ 福祉国家と貧困の再発見			
○ 重なり合う不利			
i) 社会的孤立			
ii) 生活基盤・貧困			
iii) 子供・家族の諸困難			
iv) 重なり合う不利			
○ 責任と共感			
3. 質疑			
質問: ラウントリーの貧困調査の第1回の調査年と貧困率は? 第2回と第3回では貧困率が17.7%→1.7%に改善されている。ラウントリーの調査結果から、福祉国家は貧困を解消した、と考えて良いのか?(岸特任教授)			
回答: ラウントリーはそう考えた。1960年代にラウントリーの貧困線の妥当性をめぐる論争がおこり、依然多くの貧困の存在が指摘された。これは「貧困の再発見」と呼ばれる。論争点は生活の「必需品(必要)」を、生理的水準で判断するか、社会生活への参加という観点で判断するかである。(松本教授)			
質問: 子どもの虐待に対しては、経済問題、社会的孤立など複合的な要因があることはわかったが、その場合、こどもの虐待を防ぐにはどのように対処すればよいのか(池野特任講師)			
回答: 基本問題で、簡単には答えられない。ただ、家族関係の葛藤と心理的問題に限定した対応では、限界があることは指摘しうると考える。(松本教授)			



質問：複合的な要因の中に、虐待する親の子どもの頃の被虐待歴は含まれていない。一般に、幼少期に親から虐待を受けて育つと、親になった時に虐待する、と言われているが、科学的に基づいた見解なのか？(多島)

回答：実証レベルの調査研究では、虐待の定義や調査の困難さから、確定は難しい。しかし経験的には、そのように了解されている。この了解は、①充実した「子ども期」を社会的につくることが広い意味での予防になること、②個別の被虐待経験からの回復の支援に際して自らの「子ども期」を相対化することが有効になる場合があること、の2点で実践的な意味を持つ。安易に「世代的連鎖」という言説が一般化すると、かえって宿命論的な理解が広まり、解決・緩和への手立てを見失いかねない。(松本教授)

質問：(生活保護の必要性を議論する際)生活保護を受けている人が、(あの人は映画を見に行っているから生活保護は不要だなど)生活保護を受けている人のことを、バッシングするのか？(荒木特任講師)

回答：実証研究のレベルでは、まだ手についていない研究課題である。ただし経験的には確認、了解しうる。これは一般的に「生活保護」に対する負のイメージが強いこと、近年のメディアでの近年の報道のされ方が背景にあると考えうる。むしろ政策的には、生活保護と同程度の生活水準にある層が拡大していることを踏まえて、この層に対する支援を強化することが必要だと考える。政策上の焦点は、生活保護制度ではなくて、国民全体の「最低限」の確保であると考ええる。

質問：健康増進法が審議されているとき、個人に責任を押し付けるのか、という議論があった。しかしながら、自身の健康に対しては、自分に責任を持つという考え方は必要であると思う。(岸特任教授)

回答：同意する。一般的に「責任」という用語は、「選択」の際に存在した現実的な制約の多寡、責任の範囲、個人が責任を果たすことのできる現実的な基盤、責任の対象(誰に対する責任か)といった諸要素を含んで使用されるべきだと考える。(松本教授)

質問：(自己責任という言葉に関し)以前は、国民が海外などで困ったときは、国がたすけるという線引きがあった。国内においても、フリーターに対し、自己責任という言葉が使われている。本来救済すべき立場の人も、自己責任で済まされてしまうなど、本来国が救うべき立場の目盛が変わってしまっているのではないか。(長島准教授)

回答：同意する。「自己責任」という用語は、抽象的ではなく、社会的・政治的文脈で理解する必要があると考える。(松本教授)